

(別紙4)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2491400129		
法人名	株式会社 フロントティアの介護		
事業所名	グループホーム いなべの憩		
所在地	三重県いなべ市北勢町東村363番地2		
自己評価作成日	令和5年10月19日	評価結果市町提出日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「ご利用者様ファースト」を継続しつつ常により良い支援が出来るよう職員全員意識している。施設の今年の年間目標がレクの充実で利用者様の意思表示の気持ちを高める。と同時に職員のチーム力の向上を掲げ毎月色々なレクリエーションを工夫して取り組んでいる。感染予防をしつつ家族様との交流も継続して行っている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリ

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigovsvCd=2491400129-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

『フロントティアの介護』の傘下に入り、鈴鹿山麓の国道306号線から少し入った閑静な住宅地に新築移転して6年が経過した。地主の方や地域との協力関係は構築している。本年5月にコロナ感染症が5類に移行したものの、介護の事業所としては、まだ予断を許さない状況は続いている。理念”利用者様ファースト”を踏まえて、長引くコロナ禍で閉塞感がある暮らしから少しでも脱却できるよう、夏祭り、ミニ運動会を実施し、潤いのある暮らしをエンジョイできるように、コーヒー喫茶を週1回事業所内で開店している。職員はベテランが多く、利用者目線の支援が実践されている。また、かつて事業所を利用して亡くなった後の家族から、草取りやイチジクのせん定、雪かき等々裏方仕事でサポートを続けてもらって、大変有難く受けている。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和5年11月14日		

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+) です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ご利用者様ファースト」を継続し、日々の介護業務を行い自施設の「暖かい家庭的な事業所」という理念も継続していけるよう努めている。	法人理念「利用者ファースト」、事業所の掲げた理念「暖かい家庭的な事業所」を実践し、日々の介護支援に努めている。利用者目線で寄り添い、笑顔で接し、楽しく生活ができるように支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校との連携も継続し毎年の運動会等に招待を受け交流している。自施設で行われる夏祭りでは地域のボランティアの方たちと交流できる場を設けているがコロナやインフルエンザの影響で状況を見つつ再開したいと考えている。	コロナ禍で以前のような地域との交流は出来なかった。事業所の地主は事業所のすぐ近くに住まいがあり前自治会長で、声かけ見守りなど協力的である。散歩は日常的にしており、出会った地元の方々と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括のボランティア担当者と連携を取りながら職場体験などの受け入れを積極的に取り入れ貢献し理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響もあったが今年6月から徐々に対面の運営推進会議を再開している。自治会長、行政の方々にも参加して頂き意見交換の場所も儲け家族様にも参加して頂いている。	コロナ禍でしばらく対面での開催はできなかったが、本年6月以降、推進会議として事業所内で開催をしている。事業所の現況報告、行事報告のほか意見交換の記録など報告されている。	介護の現場ではヒヤリとすることは多々ある。ヒヤリハットの報告とともに、検討、対策を参加者に伝え更なる信頼を得るように期待したい。また、参加してよかったと満足度があがる会議になるよう期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	最近地域包括や社協からの連絡も多く自施設の状況を伝えながら情報共有も密に継続できるように努力している。今回このような状況下におかれどのように連携してるかの話も共有している。	市の担当者へ、わからないことはすぐに聞きに行き、電話で判断を仰ぐこともある。感染症対策、防災のこと、介護保険での改正のこと、加算についてなど多岐にわたって助言、指導を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	コンプライアンス委員会中心に全職員で意識を持ち取り組んでいる。自施設で起こりうる案件などを課題にし検討会なども試みている。	身体拘束について、コンプライアンス委員会、身体拘束廃止委員会を設置し、3が月ごとに開催し、職員は虐待事例演習シートを使い、月に1回研修をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のポスターを施設内に張り月1度の全体会議で事例内容を用いて内容を自施設に置き換えて勉強会などの開催を継続している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用している利用者は現在おりませんが、今後の必要性も考慮し勉強会などを計画している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書面を元に詳しく本人、家族に説明をし質疑応答を行い十分に理解、納得して頂くよう取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族と連絡を取り、意向や要望を受け入れるよう努力している。面会時や家族会、運営推進会議等を通し意見を傾聴できる機会を設け反映できるよう心がけている。	コロナ禍で家族の面会を制限していたが、今は緩和しつつある。家族へは電話、ラインを使って連絡し、報告は密に実施している。全家族へ運営推進会議の出席依頼をしており、意見表出の場になっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設・運営に携わる担当を定め全体会議などで意見や提案を傾聴する機会を設けている。会議以外でも管理者、主任が職員の意見・提案・相談等いつでも受け入れられる態勢を心がけている。	職員は利用者ごとの担当制で、役割がわかりやすい体制である。職員と管理者のコミュニケーションはよく、介護支援専門員も含めて共通理解に立った運営がされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が3ヶ月に1度位のペースで面談を行っている。勤務体制や職場環境についても傾聴し個々の事情などを考慮し働きやすい職場になるよう整備し努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社での研修、外部の研修への参加、研修に必要な費用の支援など行い積極的に参加できるように努めている。また各種勉強会などを施設内で開催し職員の資質向上にも取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社協や地域包括が開催する協議会や研修などに参加しサービスの質の向上を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者と介護支援専門員が本人と必ず面接を行い施設見学も行っている。本人の話を傾聴し会話の中から本人様の不安や悩み、要望など思いを汲みとり信頼関係を構築できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設見学して頂くとともに面談の時間を設け、これまでの経緯や介護の苦労話など傾聴し共感することで家族に寄り添いこれからも共に支援していくという関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当のケアマネージャーやソーシャルワーカーなど関係各所から積極的に情報収集すると共に本人、家族様と面談を重ねニーズの把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室担当を決めヒヤリング等を行い話の内容から汲みこんだ事をレクや日頃の生活動作などを共に行うことで良い関係が築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、ご家族、施設が一体となり支えあえるよう連絡、報告、相談を密にとるよう努力している。ご本人と家族様の関係が途切れないよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係性を保つため面会の際は各自室で自由に過ごしてもらうようにしている。家族の許可がある限り知人の方でも面会をして頂けるよう努めている。	かつて住んでいた近所の方の訪問がある。利用者から、「実家近くの駅を見たい」「桜が見たい」「ジャズを聴きながらパンを食べたい」等々思いが出されると、ドライブで車窓から見るだけではあるが、思いを実現できる支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や気質を職員全員が把握し入居者同士が支えられる関係を築けるよう環境作りに取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了してもこれまで培った関係性を大切に他のサービスを利用する場合は関係各所と連携を取りフォローが行えるよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の話を傾聴し意向の把握に努めている。話しやすい雰囲気や環境作りに努めている。意向の表出が困難な場合は表情や生活歴などを元に汲み取る努力をしている。また時間が許す限りヒヤリングも密に行っている。	居室や入浴時は職員と1対1になり、その時はゆっくりと傾聴に努めている。顔の表情、仕草、言葉遣いなど、いつもと違う変化があれば、少しでも不安、不快感を取り除いて思いの把握に努め、知りえた情報はタブレットで共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人の生活歴や暮らし方生活環境を傾聴し職員全員周知できるよう努めている。また入居前の情報など関係各所の方から情報提供を受けると共に連携を取るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の思いを汲みとり過ごしやすい環境にできるよう支援に努めている。日頃からヒヤリングを行い個々の心情など汲み取り「出来る力」や身体状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題、問題点を会議で職員全員で検討し家族の意見を反映し随時計画書の作成に努めている。モニタリングは1カ月毎ごとに行い家族にも内容を把握してもらい理解してもらえるよう努めている。	職員担当制で利用者の状態をよく把握し、月に1回カンファレンスを実施している。タブレットを活用して、その日その時の情報や医師の所見などもすぐわかる仕組みである。モニタリングは定期的実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の日々の行動や健康状態は個別に記録し気付きはレポート、ノートなどに記載し介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族と密に連絡を取り、家族の現状、希望の把握に努めている。また本人の意向や家族様の都合を考慮し柔軟な対応ができるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校と交流があり運動会等に招待してもらっている。避難訓練などの行事にも参加して頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近所の担当医が24時間体制のオンコールをして頂いている。また相談にも随時対応して下さり連携を取りながら支援している。	協力医は事業所近くの開業医に依頼し、全員が主治医である。月2回の訪問診療があり、いつでも何かあればすぐ対応してもらえる。母体の法人から月に1回看護師の派遣があり健康管理をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週利用者の健康管理や助言を下さっている。また医師との連携も行い対応できるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要な時は主治医からの情報提供書や介護サマリなど必要な情報を提供しスムーズな受け入れ態勢の確保に努めている。入院中も経過を把握すると共に関係各所と連携を継続し早期退院が出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合についての事業所の方針を説明し十分理解して頂いてから同意を得るようにしている。入居者様においては状況変化に応じて逐一主治医や家族に情報提供を行うと共に対応や方針について話し合いできる限りの支援が出来るよう対応し努めている。	希望があれば、事業所内で看取りはする。利用開始時に看取りについての同意書を交わしているが、看取り状態になったら、主治医から家族へ状態についての説明があり、改めて看取りの同意を交わしている。利用者にとって最善の方法を講じている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1度消防署の指導を受け心肺蘇生やAEDの講習を受けている。勉強会において緊急時の対応の話し合い職場での実践に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回定期的に消防訓練を行う中で市職員や地域包括の職員、民生委員、自治会、地主の方にも参加頂き協力体制に努めている。11月に消防訓練を予定している。	年2回の防災訓練を実施している。本年はコロナ禍で11月が第1回の訓練である。AEDの使い方、火災を想定した避難誘導訓練を予定している。利用者は防災頭巾を被って避難をする。備蓄の食料は、定期的に試食会をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	いち個人としての考えを元に大切に支援している。日々の業務の中でもご利用者様ごとに支援内容や介助の仕方を変化させることで個人の誇りやプライバシーを損なわないように工夫している。	リビングに大型テレビはあるが、自分が見たい番組があれば、居室のテレビで楽しむ利用者もある。呼称は”チャン”付けはしない。苗字は同姓があるので名前と呼んでいる。書類はタブレットを使用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい雰囲気づくりに努め、個々に関わる時間を作り希望や思いが表出しやすいよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思に任せて自由に過ごしてもらっている。レクリエーションの参加など無理強いせず普段の会話の中から思いを把握できるよう努め支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面所には大きな鏡があり整髪料やくしなど用意しており自由に整容する習慣ができています。自律動作が困難な方に関しては職員がその人らしい身だしなみが出るよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や後片付けなどできる事を手伝ってもらい職員と一緒にすることで会話が增え、食事に対する食欲浮上や楽しみを増やしている。又食事が美味しく頂けるよう食事前の嚥下体操を継続している。	食材は業者委託である。調理は職員が担っている。事業所として特に食べることには力点をおいて、特別食、イベントや行事食の工夫、レクの一環でホットプレートを使ったお好み焼など利用者が参加するおやつ作りもしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者全員の1日の食事摂取量や水分摂取量の平均値を把握しており、利用者の健康管理に努めている。また利用者の嚥下の状態に合わせて提供の仕方を柔軟に変化させるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはもちろん、月1回の歯科衛生士による個別指導を受けながら個々に応じた口腔ケアを行い口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意の訴えがない利用者も立位が可能な限り排泄パターンに合わせてトイレに誘導している。衣類の上げ下ろしなどなるべくご自身で行なって頂きトイレを使用できるよう支援している。	寝たきりの方を除いて、トイレでの排泄をしている。立位保持が難しい方は、居室で着替えてトイレでの排泄支援に努めている。排泄は臭気が伴うので、いつも消臭は直ぐにできるように徹底している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員全員が勉強会を開催し水分摂取や運動、入浴等が便秘に及ぼす影響を理解している。最近便コントロールがうまくいっておりほとんどの利用者が自然排便が出来ている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴温度に関しては負担がかからない温度に設定をし、入浴の長さは個人の好みに合わせている。入浴拒否などがある場合でもいつでも入浴できる体制を整えている。	入浴は、週2回、午前から午後にかけてゆっくりと入る支援に努めている。機械浴の設備のある浴槽は使っていない。現在は個浴のみである。足湯をすることもある。入浴剤は使っていないが、季節の菖蒲湯や柚子湯は楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的のシーツ交換や布団干し、毎日のベットメイキング等を行い気持ちよく休息できる就寝環境の整備に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルの中に服薬情報を取り入れており職員全員が把握できるよう取り組んでいる。間違いがないよう勤務交代時には必ず服薬チェックを行い誤薬防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は個々の能力を把握しており利用者の能力に合わせた役割を担ってもらうことで責任感ややりがいを持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	晴天時には積極的に短い時間でも散歩などできるよう努めている。また要望など有れば買い物やドライブなどできるよう対応している。今年は外出が困難な為ウッドデッキを使用し日光浴や外の空気を感じていただいている。	周辺への散歩をしている。丁度よい距離に地藏堂があり、そこへ行くのが日課でもある。事業所のリビングから外に続くデッキが設えられてベンチが置かれ、そこでコーヒー喫茶タイムなどをする利用者の憩いの場である。山並みや鳥のさえずりを聞いて、プランターの野菜作りで外気に触れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々での金銭管理は困難な為、家族同意の元立て替えという形を取っている。またレクなどを行い付き添いの元買い物を楽しめるよう努力している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的に電話や手紙のやり取りは自由であるが家族の事情もある為事前に相談・報告をしスムーズに連絡が取れるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて四季を感じられる空間づくりを心掛けている。四季のインテリアや掲示物、昼夜の照明の光調やエアコンによる室温調整を行い居心地の良い空間づくりを心掛けている。	職員手作りの絵やファンタジーな切り絵がいたるところの壁に飾られて、優しさを醸している。明るさ、適度な室温調整、気になる臭いはしないなど配慮がされている。時節柄、窓は日に2回開けて空気の入れ替えが図られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭やソファなど共有スペースをうまく利用し利用者同士居心地のいい空間作りを工夫を凝らしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様個人の居室においては家族の写真を飾ったり、花や人形など個人の趣向に沿った居室づくりを行っており穏やかに過ごして頂けるよう配慮している。	利用者が使っていた物や家族との写真が飾られたり、ハロウィーンで作った手作りのカボチャの飾り物が置かれている。各居室はクローゼットで収納してきちんと整理整頓しており、思い思いの居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物屋内は基本的にバリアフリー設計で高齢者が過ごしやすい作りになっている。トイレや入浴場等には分かりやすい標識を活用し利用者の身体状況に合わせて個浴、寝浴が使い分けられる作りになっている。		